

千人針や兵士の書簡…

平和の大切さ 改めて

戦後78年 博物館でロビー展



市立博物館のエントラン
スホールで、「千人針」が
開かれて。今年で戦後78

年。無事に帰ってほしいという願いを込めた千人針、出征兵士が家族に宛てた書簡などを通し、戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝えていく。

千人針は、戦地に出征する人の無事を祈り贈られた。一枚の布に糸を縫い付けて結び目を、千人の女性がひと針ずつ縫ったことから名付けられた。展示はひも部分にクルミが縫い付けられ、無事に帰って「来る身」と託されたもの、四銭を超える(「死線を越える」として、五銭硬貨を縫

千人針、出征兵士の書簡などが並ぶロビー展「千人針が語る戦争の記憶」
6日、市立博物館

い込んだものなど。

兵士が戦地から送った便りには、子どもたちの養育や家事に一生懸命な姿が目につかふと記された。

また地図上に防災本部、リケンや日石など五つの区分を記した市制施行直前の柏崎町防空計画要図、陸軍兵士の軍帽や水筒、ゲ

ートルなど。夢を抱いて渡満した満州柏崎村開拓団の様子の写真パネルもある。

学芸員資格取得の実習生で、展示を手伝った新潟産大3年・沢井穂華さんは「遺書などに実際に触れ、戦争の悲惨さ、平和の大切さを改めて思った」と、同・

南唯香さんは「戦争を一度と繰り返してはいけない」と強く感じた。博物館で収蔵する意義も大きい」と、同・

佐藤諒太郎さんは「戦争当時の庶民の暮らしの展示を担当し、生活の苦しさが分かった。若い力で平和の大切さを発信していきたい」

「戦時下の厳しい暮らしを伝えるさまざまな関係資料を通し、戦争に巻き込まれた人々の暮らしや思いを知ってもらいたい。戦争の愚かさ、平和の大切さを改めて考える機会にしてほしい」と話した。



星空に響け! 歌や演奏

別侯地区 旧木造校舎バックに楽しむ

自然の中で楽しんだ「星空音楽祭」15日、農村体験交流施設「きらら」特設ステージ

市内へつまた農村工房別侯地区コミュニティ振興協議会が5日、農村体験交流施設「きらら」(旧別侯小)グラウンドの特設ステージで星空音楽祭を開いた。出演者を含め、地区内外の約250人が夏の夜のひとときを楽しんだ。

星空音楽祭は木造の旧校舎をバックに、音楽を楽しもうと2006年から始まった。新型コロナウイルスの影響で中止期間もあり、今年で16回目。夕暮れが深まる中で、ソロやグループが次々と、ギター、リコーダー、サクソフ、ドラムなどで30曲以上が演奏され、

自然の景色に美しい音色が溶け合った。このうち、新潟市のグループ「snow drop」(スノードロップ)は10回目の出演。5人がテレビ局のテーマソング「大好き!にいがた!」をはじめ、ノリのいい曲で会場を沸かせた。ポーカーのYUKIさんは「地域の人たちが大事に守り育ててきたイベント。手を振ったり、拍手をしてくれたりして、音楽が好きな様子が伝わる。これからも愛着を持ち、歌い続けたい」と話した。

初めて訪れたという市内諏訪町の星野直美さん(56)は「日が陰り、空がきれい。気持ちよく音楽を聞ける」と満足。新潟小5年・植野智佳さんは「いろいろなジャンルの音楽があつていい」と言い、同6年・小暮咲絆さんは「演奏、歌があつて、とても面白い」、妹の同3年・初希さんは「地域の人と交流できて良かった」と地元のイベントを楽しんだ。

会場設営などに当たった新潟大のグループは11人が活動。3年・小檜山涼雅さんは「地域の人たちが友好的なので緊張することなくリラックスして手伝いができた。今は手伝いにプラスして主体的に関われたい」。新潟産大権田ゼミからは10人が参加し、3年・阿達舞華さんは「自然豊かで木造の旧校舎はすてき。地域の人たちも温かい」と接客に対応した。

農村工房代表の池嶋武盛さん(62)は「年々を取り、設備は大変だが、皆さんの楽しそうな顔を見たいために頑張れる。音楽を聞いていると気持ちがよく、大勢で共有できて良かったと話した。

産大レクチャー ●●● ア・ラ・カルト

〈189〉

皆さんは毎月一定額を払って利用しているものがありますか？

この柏崎日報の購読もたぶんそうですね。賃貸の家賃、生命保険や損害保険、健康サプリメントの通販、英会話教室やスポーツジムの月会費、結構ありそうです。こうした定額で一定の期間内に一定の商品・サービス

の提供が受けられる契約

形態をサブスクリプションといいますが、最近では略して「サブスク」と呼ばれています。

もともとは新聞や雑誌の定期予約購読の意味でした。それがインターネットの普及に伴い、今やあらゆるビジネスで「サブスク化」が進んでいます。例えば、毎月定額で人気映画が見放題、毎月定

サブスク

額でオンライン・ゲームが遊び放題、毎月定額でヒット曲が聴き放題、毎月定額で季節の食材が自宅に届く通販、毎月定額でジムに通い放題、毎月

と、会員数が巨大になることが特徴です。例えば、動画配信サービスのネットフリックスは全世界で数億人、任天堂のゲーム配信は数千万人、またオ

定額でエステし放題、みんなサブスクです。最近では大手自動車会社が新型電気自動車を毎月定額料金乗り放題でサブスクし始めています。

イシックスの定期食材宅配は数十万人の会員がいます。なぜこれほどサブスク化が進むのか？ 巨大化するのか？ それは売

今村 英明

あるからです。買い手（消費者）にとっては、①毎回つと購入するより安い②先行会員がいると安心③多くのパ

商品のアップグレード（更新）ができる④自己所有時の管理やメンテナンスが不要、など。一方、売り手にとっては、①毎月利用料が入るので安定的な収入基盤が確保でき

る②顧客と定期的な接点を持つ、顧客データが蓄積できる③多種多様な商品・サービスを追加販売できる、など。メリットがある限り、今後もサブスク化が進行するのは確

実です。売り手にとってサブスクの最大の課題は、会員顧客が離脱（会員を途中でやめる）ことです。離脱率が5%上がると、利益率は25%減るといって対25の法則が有名です。したがって企業側は会員の離脱防止に色んな手を

しています。常に新提案をしてマンネリ化を防ぐとか、会員優遇策でお値打ち感を感じてもらおうとか、顧客を「中毒化」

「サブスクがないと暮らせない」状態を作り出すとか、思い当たる節はありませんか？ サブスクは便利ですが、ホントにそれが必要か、「中毒化」させられる前に時々チェックも必要かもしれませんね。

（教授）
Ⅱ 毎月1回掲載Ⅱ

「新潟県赤十字」 地域に学ぶ

地域を学ぶ

— 実践活動レポート —

復活した 産大みこし

日中の暑さがまだ残っていた7月25日の夜、柏崎市夏の一大イベントであるきおん柏崎まつり「たる仁和賀パレード」が4年ぶりに市中で開催された。本学も「地域に学ぶ」地域を学ぶを神輿(みこし)のテーマに参加。水球部、サッカー部、卓球部の学生を中心に集まった50名のメンバーで、産大みこしを担いだ。

新型コロナウイルスの影響で同まつりが3年間行われなかったこともあり、今回初めて参加する学生も多かった。そのため、事前に行った神輿の練習や本番に向けた準備の際は戸惑いや不安を口にする者も少なくなかった。しかし当日、いざまつりがスタートすると熱気に包まれた会場に学生も奮起し「セーヤ！」「サー！」と自主的に大きな掛け声をあげてみこしを担ぎ、場を盛り上げた。すれ違う各団体の神輿に

エールを送るなど、すくしまつりの雰囲気は盛り込まれていた。

桜井市長の前で口上役を務めた田中真由さん(4年)は「たる仁和賀に参加して、参加者同士の交流はもちろん、地域の方々とも交流ができて楽しかったです。柏崎がひとつになってまつりを盛り上げ、改めて地域のつながりの大きさに感動しました。また、学生代表として口上を述べ、貴重な経験をさせていただきました」と初めてのたる仁和賀を充実した表情で振り返った。

参加した他の学生からも「地域の一員になった気がした」「来年も絶対に参加したい」などの声を聞くことができた。自分

たちが地域を盛り上げる一助となれたことを肌で感じられる機会となった。当日は市民のみならず、から本学へあたたかい声援と拍手をいただいた。

とに対し、この場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございます。 (同大学地域連携センター)



産学連携積極的に 工科大と産大 学長が現状など講演

工科大と産大 学長が現状など講演

柏崎商工会議所の一般工業部会(藤村範太郎会長)は23日、田辺裕治・新潟工科大学学長、梅比良真史・新潟産大学長による講演会を商議所大研修室で開いた。共通テーマは「工学と産業界の交流について」。両大

学とも産学連携に積極的な姿勢を示した。同部会会員ら約30人が参加した。最初に田辺学長が講演を行った。前年度からスタートした4学系7コースを説明しながらDX人材養成講座など多様な産学連携やドローンの性能評価研究の試験場の設置など先端的な技術開発の状況も解説した。

一方、人口減少を背景に学生の募集が定員に達していない厳しい現状も報告。女子学生枠の設定など対応策を打ち出しているが、工業

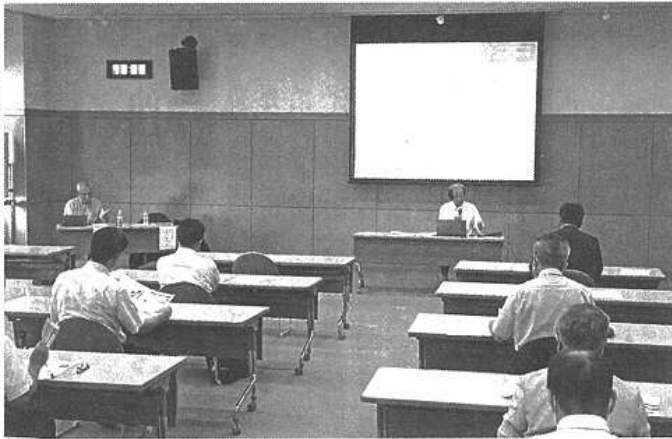
業高校の生徒数が減少する中、一つの大学で打てる対策は限られているとした。最後に高・大(大学院)を接続する新教育課程構想について私案と断りながらも「高校課程からの大学入試をなくして長期的な視野で技術人材の育成を行う必要

性があるのでは」と改革の必要性を訴えた。梅比良学長は「多様化する教育のニーズに対応するため今年初めて通信制課程を導入した」としてその仕組みを説明。全吉制と通信制、高校と大学を相互に組み合わせるシステムで「産大の生き残り戦略」と位置付けている。通信制の割合はまだ少ないが全国的に急激な増加傾向にあるとした。

「これまでも人口減少の課題は理解しながらも対策が不十分だった」とする一方、「技術面を改善しながら社会のニーズに合わせていきたい」としていた。産大では特に地元の問題解決のため、地域社会との共同と連携を大切にしていると

もした。両大学とも産学連携にはさまざまな形で積極的に取り組みたい方針。特にインターンシップについては地域の理解と地元定着のために積極的に取り組んでほしいとしていた。各種出前講座も充実している。

エネルギー電力の購入(年間4900万削減)、リケンメキシコ社、熊谷事業所に太陽光発電設備導入(646万削減)などを取り組んできた。



柏崎商議所一般工業部会が行った新潟工科大、新潟産大の学長による講演会Ⅱ同商議所研修室

柏崎抄

▲八中学校の
結成から開校

へ、そして大学
へと、教育界
の発展をうけて
いる人口減少問

題。大学・産

業界の交流「産学連携」をテーマに23
日、柏崎商工会館で開かれ、

日、市立大の同学生が行った講演で語られたのは、産学連携の重要性だ。

田辺市立大の同学生は、田辺市立大を卒業する新

教育課程で、特に産学連携をテーマに、

それらをテーマとした人口

万人の地産地消をテーマとして、

理系系系系の大学を
擁するまち生まれ、だが、

人口減少問題は、地方
の大学の経営を脅かす。

講演は、四つ、即ち大学の
学長が出席を希望する機会だ

なると、産大は、産大から産
しい産学連携を促す、公立

への産学連携した産学がある。

一方、これは、理工大
の産学連携が産学連携した

事例は、産大が産学連携の
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

産学連携は、産学連携の産学
産学連携は、産学連携の産学

(E)

「新潟大学学生会」 地域に学ぶ 地域を学ぶ

— 史政活動レポート —

「夏祭り」

柏崎・高柳

もつと熱く

市内高柳で今月初旬、
昨年に続き「和つしよ
いーじよんのび夏祭り」
が開催された。実行委員
は、柏崎リーダー塾第5
期生の「チームしなぶす」
代表である会田望さんの
ほか、産大の有志学
生たちだ。当日は晴天の
下、多くの屋台やキッ
ンカー、産大ゼミの店
が並ぶ中、太鼓やよさこ
い演舞、子供神輿(みこ

し)が行われ、夜には願
いごとを書いた夏空ラン
タンが舞い、来場者の記
憶に鮮やかなページを
提供した。

会田さんは今回のイベ
ントについて「柏崎地域
と在住の若者に活気を与
える目的で始め、2年目
も産大生とのコラボは不
可欠でした。産大生は市
外出身者も多く、一緒に
企画や運営に携わった学
生が卒業してもまた柏崎
に戻ってきてくれる機会
を提供することで関係人
口を増やし、地域の活気
を増やしていきたい」と

狙いを語る。また、関係
人口を増やす鍵として挙
げるのが、共同作業を通
じて得られる「成功体験」
だ。コロナ感染拡大防止
のためにイベントの実施
が制限されたことで「成
功体験」を感じる機会も
減少していた。

昨年に続いて実行委員
になった今村奈津希さん
(2年、三重県出身)は
「柏崎の魅力を再発見す
るだけでなく、しなぶす
のメンバーとの共同作業
は、学生間では得られな
い気づきが多くありま
す。物産販売では、今年
も地元産はちみつの販売
を担当し、商品知識と接
客スキルが身についたこ
とも収穫です。来年もゼ
ミ参加したい」と話す。
当日会場となったしよ
んのび村には、昨年の夏

祭り実行委員として、ま
たは模擬店出店の形で連
営に関与した多くの産大
卒業生が遠方から駆け付
け、今年の実行委員を喜
ばせた。継続していくこ
と、想(おも)いをつな
いでいくことで、狙いが
少しずつ実を結びつつあ
る。
(同大学地域連携センタ

